

平成 14 年 3 月 19 日
神戸市教育委員会 文化財課

端 谷 城

第 1 次発掘調査地元説明会資料

(1)はじめに

端谷城は、鎌倉時代から戦国時代まで現在の櫛谷町・平野町・押部谷町をおさめた衣笠氏の最後の居城として知られています。現在の端谷城は、山の中腹に衣笠氏の菩提寺である満福寺が建ち、寺の裏山は一面クヌギ林になっていますが、昭和 38 年以來、地元寺谷の前山純三氏の研究によって城の構造などが紹介され、戦国時代終わり頃の山城遺構を良く残す城址として知られてきました。

城址では、平成 12 年に寺谷地区里づくり協議会を中心に、地区住民の方々やボランティアの協力により伐採・清掃・整備作業がおこなわれ、城跡整備へと準備が進められてきました。このたびの発掘調査は、整備作業をうけ端谷城の二の丸、西の壇(曲輪)の遺構有無の確認と城の構造を確認する目的で試掘調査を実施しました。

調査は、平成 14 年 2 月 19 日から実施して 3 月 27 日に終了予定です。

(2)調査の概要

端谷城は、南北の尾根を切って、馬蹄形に深い堀切りを掘り、丘陵の最も高い部分を本丸としています。さらに、南側に地形を利用しつつ二の丸、三の丸(現満福寺)の平坦面や曲輪をつくり、本丸の西側尾根に比較的大きな曲輪「西の壇」を設けています。二の丸と三の丸の間には土塁と堀切りを設け、極めて堅固な城構えを整えています。

調査では、3 月 19 日現在までに西の壇で礎石建物 1 棟、塀の基礎、土塁、空堀などが発見され、二の丸では掘立柱建物 2 棟と雨落ち溝、柵 1 条、塀の基礎が発見され、鬼瓦などの瓦、天目茶碗・播鉢などの陶器、白磁・青磁などの磁器、鉄釘なども出土しています。

「西の壇」で発見した遺構

建物 1

西の壇とよばれる本丸西側の尾根を利用した曲輪に建てられていた礎石建物で南北 2.0m(2 間)、東西 6.8m(4 間)の規模があります。幅 5m、長さ 12mほどの狭い敷地を塀で囲み、塀に接して細長い建物が建てられていました。

土塁と空堀

建物 1 のすぐ東側には高さ約 3m 弱(西側から)の土塁が外空堀にそって「く」の字に造られ、その内側に沿って空堀が掘られていました。この堀のなかに埋まった土からは多量の瓦が出土していて、廃城後本丸から流れ込んできたと思われます。この瓦のなかには鬼瓦もありました。

「二の丸」で発見した遺構

建物 2

本丸の南西にひろがる長方形の平坦地が二の丸です。この二の丸の中央やや北よりで発見した東西 10.7m(7 間)、南北 6.5m(5 間)の東柱をもつ掘立柱建物です。東・西側は塀に接し塀内側の溝を雨落ち溝とし、北側は石敷きの雨落ち溝を設けています。柱穴の中からは白磁の小鉢が出土しています。

建物 3

建物 1 の南に建てられていた東西 7.5m(4 間)、南北 4.5m(3 間)の東柱をもつ掘立柱建物です。北・東側に雨落ち溝を設け、西側は塀に接し、塀内側の溝を雨落ち溝としています。建物 2 とやや柱並びの方向は違いますが、ほぼ同時期に建てられていたと考えられます。

柵

本丸と二の丸を区画する溝から南 5m に東西方向の柵と考えられる柱列を発見しました。柱の間隔は概ね 1.8m ですが、南北トレンチ中央の柱間隔は 1.2m と短く、この 3ヶ所の柱は門扉である可能性も考えられます。

塀

西側 3ヶ所、東側 1ヶ所で塀の基礎と考えられる溝などを発見しました。東側の塀の基礎は内側に溝を設け、外側は段を設け、段と溝の間に瓦と土を積んで基礎を造っていますが、漆喰などは発見されていません。西側の塀の基礎は 2本の溝を掘り、河原石と土を積んで基礎を造っています。しかし、塀の基礎部分は発見しましたが、板塀であったか土塀であったかは明確にできませんでした。

(3)おわりに

今回の調査は、西の壇と二の丸について実施しました。西の壇では小規模な曲輪ながら礎石建物を発見し、土塁・空堀など本丸西側の備えが、極めて強固な構えであったことがわかりました。また、二の丸では陣屋とも考えられる二棟の掘立柱建物を発見し、陣屋は北側を柵、東・西では土塀もしくは板塀で囲まれていたと考えられます。

今回の調査では、西の壇北側で本丸側からの流出土内から多量の瓦片が出土

しています。その内には鬼瓦が含まれることから、本丸に建てられていた主殿は、本格的な瓦葺き建物であったと推定されます。一方、二の丸中心部では瓦の出土は少量で、東側塀周辺に集中し、陣屋建物は板葺きであったと思われます。

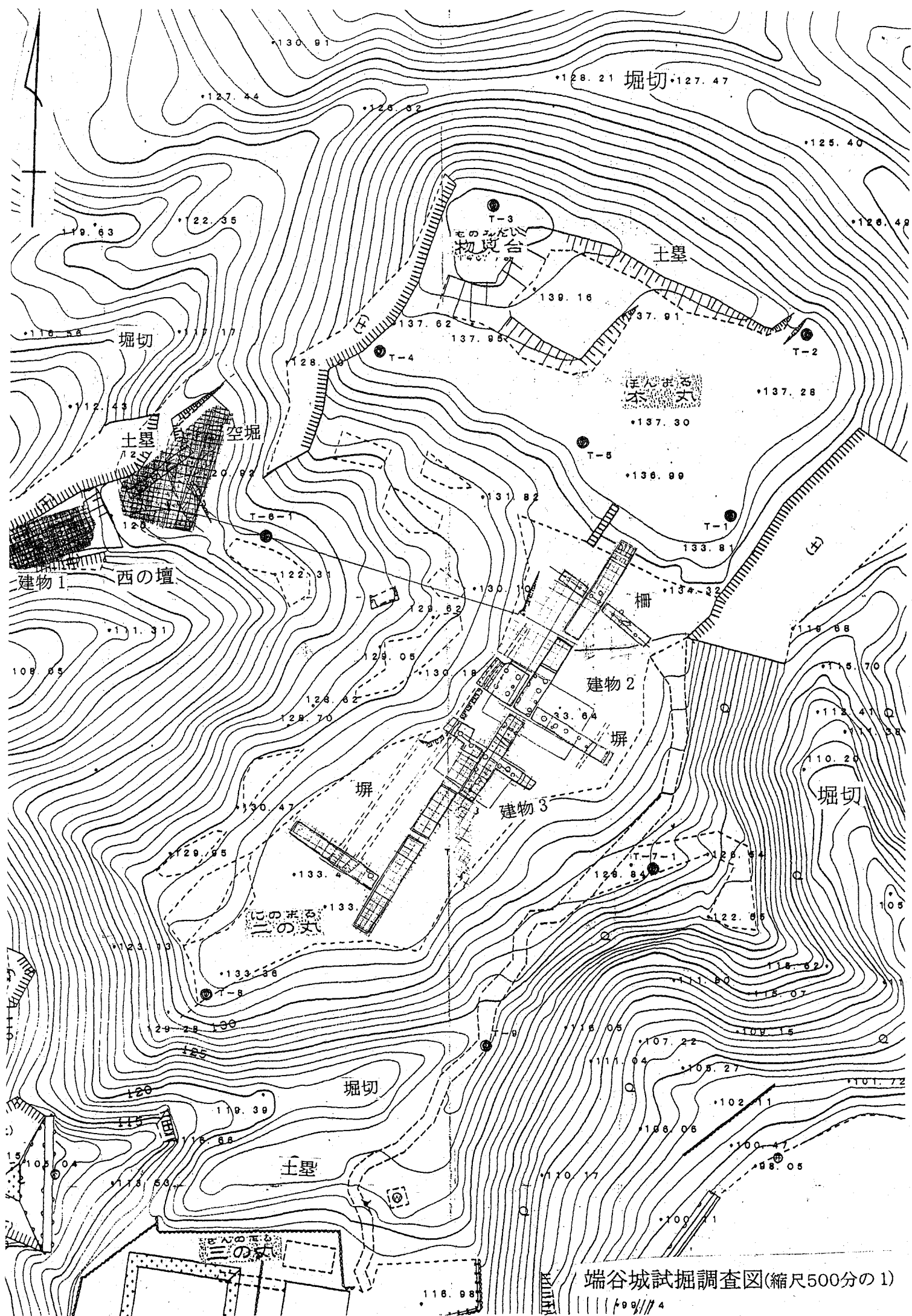
今回の調査の結果、端谷城は神戸市内の数ある城跡の中でも、極めて残りの良好な山城であることがわかりました。今後より詳しい調査を実施して城址の保存に生かしていきたいと考えています。地元の皆様方にはなお一層のご協力をお願い申し上げます。

用語解説

- 雨落ち溝(あまおちみぞ)** 庇の下の地表に溝を掘り雨水を受けた溝。小石が敷かれる場が多い。
- 曲輪(くるわ)** 城防備のために土塁などで囲まれた平坦地
- 漆喰(しっくい)** 消石灰にニガリを加え、粘土を配合した塗壁材。
- 陣屋(じんや)** 軍兵が集まり、作戦を企てた建物、または場所。
- 主殿(しゅでん)** 城の当主が公の場として用いた建物。
- 礎石建物(そせきたてもの)** 柱を据える位置に穴を掘り根がためした後、扁平な石を置き、その上に柱を据える。寺院など大規模な建物に用いられる。
- 束柱(つかはしら)** 縁の下、天井裏などで用いられる短い柱。ここでは床を支えた柱。
- 天目茶碗(てんもくちゃわん)** 茶の湯にもちられる抹茶茶碗。中国の建窯のものが代表的で、日本では瀬戸産のものが知られる。
- 掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)** 地面に穴を掘り、柱を直接据え埋めて建てられた建物。

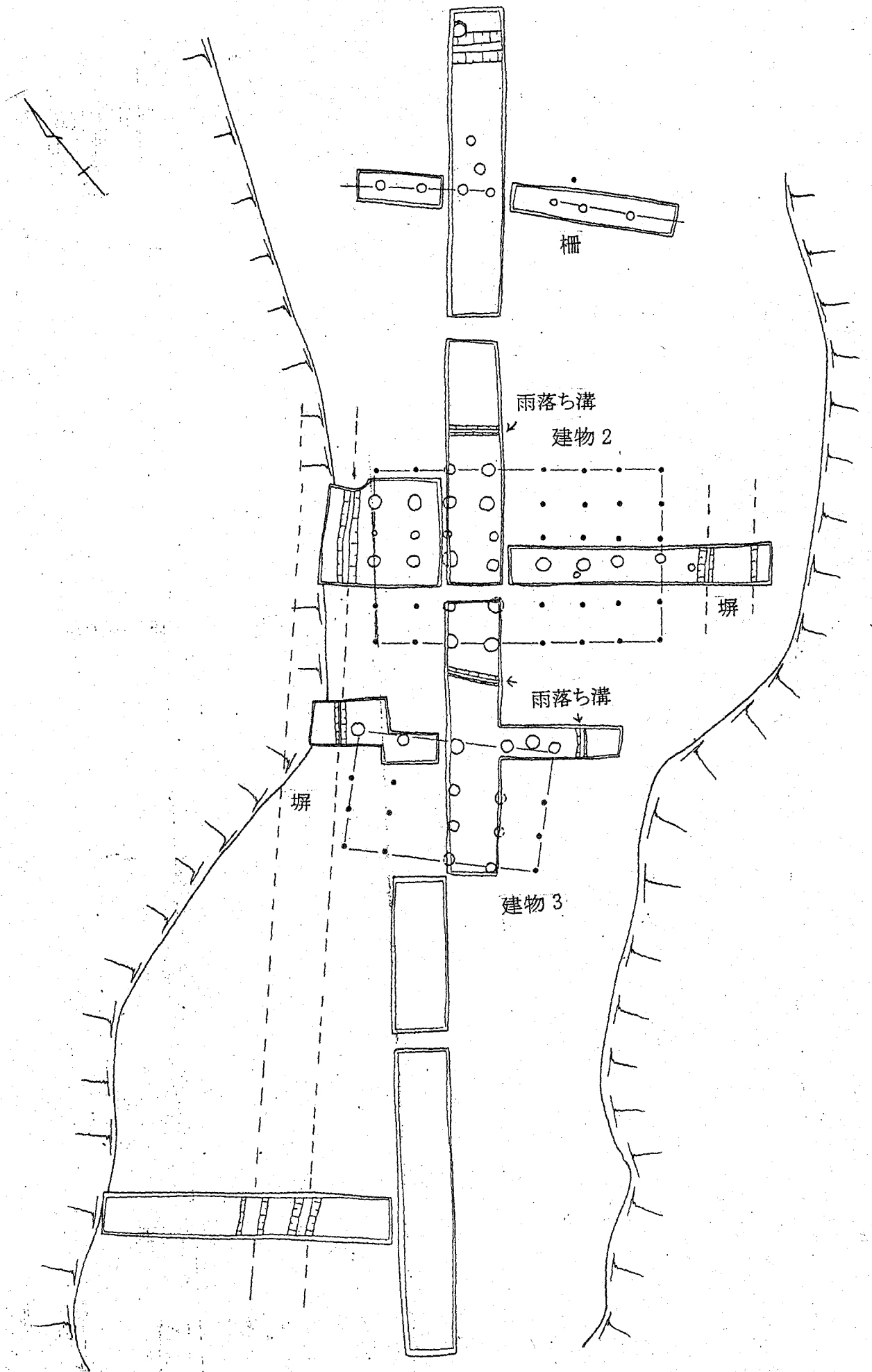


建物復元図(イメージ)



端谷城試掘調査図(縮尺500分の1)

1997/4



二の丸建物配置図(縮尺200分の1)